



雪梁舎フィレンツェ賞展で
最高賞を受賞した

杉山 花菜さん

すぎやま・はなな
星槎道都大学美術学部3年。
市内在住。
受賞作品「シンシヨク」は、9月
11日まで新潟県雪梁舎美術館、10
月24日～30日に東京都美術館で展
示される。

普通とは違つ着眼点

新潟県雪梁舎美術館が主催する若手作家の登竜門の一つ「第24回雪梁舎フィレンツェ賞展」で、星槎道都大学美術学部3年の杉山花菜さんが描いた作品が最高賞「フィレンツェ大賞」に輝いた。大賞受賞者には、同美術館が3カ月間のイタリアのフィレンツェ留学や創作活動のための費用などを支援する。杉山さんは貴重な機会を得ることになった。

受賞作品「シンシヨク」は、普通は目を付けない地面に着目し、アスファルトと白線が雪や寒さの影響でポロポロに崩れていたり人間の足がタンポポを踏みつけていたりする様子を、油彩にテンペラを取り入れた混合技法で描き上げた。

ゼミで指導する安田祐造特任教授は「日本ではテンペラで絵を描く人は少ないと思います。留学するフィレンツェは、街中が美術館。本場のテンペラ画を見てほしいし、少しでもスケッチして来てほしいですね」と話してくれた。

北広島を選んだ理由

杉山さんは静岡県の高校や専門学校で美術を学んだ後、ピアノ工場で働き学費を貯めた。星槎道都大学を選んだ理由は「友人が通っていて薦

地面を描き、最高賞受賞でイタリアへ

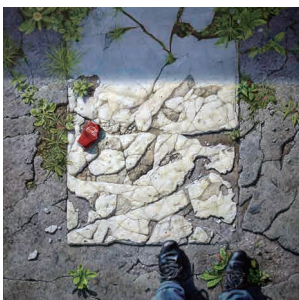
められたからです。北広島に来たとき、雪や寒さで道路がひび割れているのが印象的でした。自然がすぐそばにあって花や植物がたくさん咲いているイメージ。都会過ぎないので生活しやすいですね」と話した。

将来の夢

「フィレンツェ留学は、卒業後になると思います。めったに得られない機会なので楽しみにしています。たくさんの人と交流したいのでイタリア語を覚えな」と笑顔で話してくれた。

将来は「働きながら制作を中心に、絵で稼げるのが理想。しっかりと描く時間を作り、実績を積み重ねていきたいです」と表情が引き締まった。

杉山さんは、他の公募展のために次の作品を手掛けていた。モチーフはJR北広島駅の点字ブロックだ。これからも北海道の自然の素晴らしさや厳しさを絵で表現してほしい。



最高賞受賞作品「シンシヨク」
(162.1×162.1cm／混合技法
／板)

*テンペラ…粉末状の顔料を紙や板などに定着させる役目をする接着剤として、乳化作用のある卵などを使い描く画法。